

# 11.5J 学生総会に對する

## 低次元の妨害を

### 怒りをこめて糾弾する!!

全市大の皆さん、

去る十一月五日、工部部協成室で、志望部学生総会が、二百四名の学生  
総集して、討論を繰行し、展開しての途中、一総会更力紛争を叫び、法  
廷定、法廷争あるか否か、わからず、法廷争の諸君の妨害にあつた。  
「我々を妨害する」となりました。

全市大の皆さん、

彼等は、「民意の、民意による、民意のための総会」を妨害する。どうい  
た形で、総会の意志を歪曲し、混乱を意見の妨害をもとめて、真の民主化のろ  
性、真に権利と責任である「法廷」を、却て討論を妨害して、我々を妨害  
して、我々を妨害して、会場に押しつけようとした。我々は、会場の混乱  
をさげすむため、臨時的な決議として、ドデを閉めた。

そして、参加者の意志を代表し、彼らと共に、学生総会を成功させようとして、  
会場外に出た議長団に對して、「学生総会は決まり、学生総会開催  
の責任を果す」といつた形で、決議を押し合ひに押しつけようとした。

この時、文部部の学生が、会場の入り、バルサンを投げたのである。

して、これを外へ放り出すと、「議員がバルサンを投げた。火災を引  
中にある。いかに、ドデを流し、外にこの学生を強制し、学生総会をセ

クト的なものに歪曲しようとした。

そして、折固、総会開催して、真の民主化、真の自己を確立して、  
こうとする参加者にして、文部部、全市大もまた彼らに、窓ガラスを  
割り、石を投げ、総会を破壊しようとしたのである。

真に民主化の道については、総会に参加していた二百四名の学生が  
確認しており、彼らごのようには、総会に参加して、責任は免れな  
い。

そして、参加者の意志を代表して、彼らと共に学生総会を成功させようとして、  
議長団に對して、その誠意を表明した。たのである。

我々は、どういつ、集議で、やむなく会場を閉鎖し、皆の学生を許さず、  
た、非常に残念だが、彼らと共に総会を持っていくことを断念し、場外に  
退去した。この時、もや、多数の学生が彼らに暴行を受けたのである。

そして、議長団のため、建設的な立場で総会に参加しようとしていた  
諸君が参加できなかったことに対しては、これらの事情をよく理解して、  
いと共に、この暴行に關係した諸君に對しては、深く反省をうたがした  
り。

そして、いかに、市長団による暴行でも、こういつた形で妨害し、



もしも、たゆまぬに對して危懼を加えるとは、一体、どのような根拠によりの

なことが許されるのか？

彼等は、自らの論議の崩壊を異力でカバーしようとする、フランス

の低劣な行動の所か、現在ほどなことを示している。

そこをわきまにしているのではある。

集会の中で、自らの論議を展開するものが、彼らのどうも正しくない態度

を考えまし、学生集会を歴史的に用いてゆくのは、我々、全米学生の

ためというところ、再度備案する必要があるだろう。

一、あまりいな態度を上空を飛ぶ諸君（具体的に授業に出ること

）に對しては、自らの多量した、その様な態度こそ問題にするべきで

つと考える。

二、再度、より広汎な建設的意見を持った学生に對して、我々と共に

いかに成功させる様、怒りにふるえる気持ちと二つを許します。

丁丑公有志連合、及び  
総会参加者一同